



# 小

小さい頃から絵を描くのが好きで、就職してからも仕事の合間に油絵を描いていました。

27歳の時、栃木県労働者美術展で一席を受賞してから、多くの賞を受賞しています。

もっと絵が描きたくて56歳で職場を早期退職し、周囲が応援してくれたこともあって、描いたり教えたりしながらの生活に切り替えました。本格的に取り組めるようになったことで、退職して3年目に日本美術展覧会(日展)で初入選し、以来7回入選しています。

「絵の中には起承転結があるんです」と話す岩上さんの絵の題材は「日本の原風景」で、各地に写生に赴き、特に雪景色を描くのが好きだそうです。岩上さんが主催する絵画サークル「新絵画同好会」は、主に写生を中心にして35年もの間活動が

## とに絵が描きたくて

いています。「94歳の方もいらっしやるんです。高齢になっても元気であるのは、絵を描くという目標や励みがあるからです」と、絵の話になると話が尽きません。「青春とは若い人だけをいうんじゃないんです。私は今まさに壮春真つ盛りです」と楽しそうに話されます。

工芸にも興味があり、絵を描く傍ら、粘土で人形も作っており、そのリアルさに驚かされます。

4月17日から19日までの期間、市役所市民活動スペースで「岩上満・米寿記念展」を開催予定で、油絵・絵手紙・粘土人形などの工芸作品を展示するそうです。開催が楽しみです。

(市民記者 永倉文子)

## キラリ話題の人

### 岩上 満さん

- ・元葛生小学校非常勤講師
- ・元NHK宇都宮カルチャー教室講師
- ・新絵画同好会主催 ・花手紙の会主催
- ・あその里絵手紙の会主催



## ようこそ 市長室からこんにちは!

柔らかな春の日差しと共に、いよいよ新年度がスタートしました。進学や就職、異動など、新しい環境で新生活を始められた方も多くいらっしやることと思います。皆さまにとって、この一年が実り多き素晴らしいものとなります。すよう心よりお祈り申し上げます。

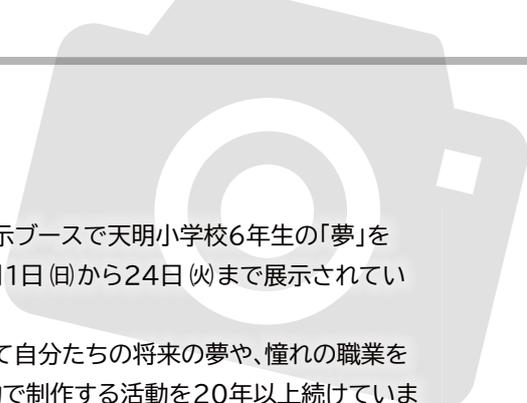
さて、本市では令和4年に「第2次佐野市総合計画中期基本計画」を策定し、「進化する佐野市」「選ばれる佐野市」をまちづくりの基本理念に掲げ、歩みを進めてまいりました。これまでの取り組みを通じて、20年、30年先を見据えた佐野市の土台は着実に築けたと確信しております。

そのため、「後期基本計画」を策定しました。

本計画では、これまでの成果を検証し、市民の皆さまからのご意見や私の公約を具体的に盛り込みました。特に、安心して子どもを産み育てられる環境づくり、誰もが安心して暮らせるコンパクトシティの推進、市内防災力の強化、国際化施策の戦略的展開といった重要テーマについて、部門の垣根を越え全力で取り組んでまいります。これまでの良い流れは大切に引き継ぎながらも、変えるべきは勇気を持って変えていく。そんな「進化への新たな挑戦」を、まちづくりの主役である市民の皆さまと共に進めていきたいと考えております。



佐野市長  
金子 裕



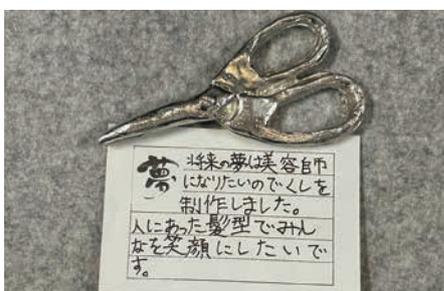
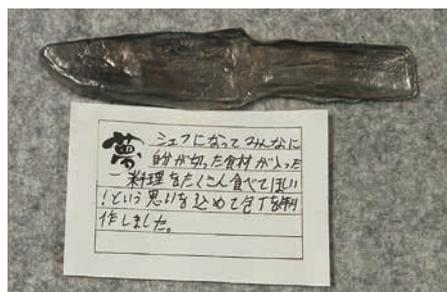
天明鑄物で卒業制作  
夢をカタチに

大蔵町の市立図書館、2階の展示ブースで天明小学校6年生の「夢」をテーマとした卒業制作70点が2月1日(日)から24日(月)まで展示されました。

天明小学校では、卒業制作として自分たちの将来の夢や、憧れの職業を具体的な形にした作品を天明鑄物で制作する活動を20年以上続けています。制作にあたり、今年も若林鑄造所の若林秀真さんと美延さんの指導のもと、まず地域の誇りである天明鑄物の歴史について学び、その後、夢を形にするために自分で制作した石膏の鑄型に、溶かした錫を自ら流し込み、冷めた後に鑄型を木づちで割って、取り出し、磨いて、完成となりました。

展示されていた夢を形にした作品は、どれも一人一人の個性が輝き、夢を後押ししたくなるものばかりでした。若林秀真さんから「天明小学校の6年間で育まれた、それぞれの個性ある作品に、毎年出会えることを楽しみにしております」と感想を寄せていただきました。

大人になっても小学生だった頃の夢が形に残っていることはとても素晴らしいことだと思います。(市民記者 中里聖子)



全国から選抜された佐藤さん鈴木さんが佐野市に集結  
佐藤の日イベント「佐藤 vs 鈴木 サッカー対決」

3月8日(日)、コンチネンタルホームフィールドにて「佐藤VS鈴木サッカー対決～佐藤も鈴木も半端ないって！～in佐野」が開催されました。

全国から応募のあった佐藤さん、鈴木さんの中から選抜された両チーム計33人が出場。熱戦の末、4対2で佐藤チームが勝利しました。

佐藤チームの監督を務めた佐藤勇人さんは、「佐藤と鈴木、それぞれの名字を持つ皆さんもいろいろな背景があると思いますが、自分の名字やルーツに誇りを持って生きていくことはとても大切だと思います。このイベントで出会えた縁をきっかけに、今後も交流が続いていけばいいなと思います」と語っていただきました。

